

事務事業評価票

様式第2号

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館	係	事務事業No.	110613
事務事業名	山岳博物館教育普及事業				会計	一般会計
まちづくりのテーマ	第1 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				款	10 項 6 目 1
施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進					
前期計画掲載頁	42	頁	個別計画	第7期 社会教育計画	37	頁
事業期間	平成 29 年	～	平成 33 年	根拠法令・要綱等 博物館法		

事業の目的	山岳博物館は、平成14年に宣言された「山岳文化都市宣言」の趣旨に沿って、自然と人が共生する先人が守り育ててきた独自の山岳文化を受け継ぐとともに、かけがえのない豊かで美しい自然を次の世代に伝えていく役割があります。そのためにこの地域に残された人文・自然科学にわたる調査研究を積み重ね、関連する資料の収集、整理、保管に努め、こうした有名・無形に残された資料の活用を通し、教育普及事業を推進する。							
事業内容	平成30年度は、企画展「北アルプス誕生ー激動の500万年史ー」の開催及び関連事業の開催、さんばく夏期だいがく「親子化石教室」の開催、山博友の会との共催による講演会、産業観光部と連携した「カクネ里氷河の魅力」と題したシンポジウムの開催、ライチョウ公開記念講演会の開催、学校との連携・融合による授業や課外活動の実施、その他各種広報活動や問い合わせなどのレファレンス活動を実施している。							
事業費	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度				
	総事業費(決算額)	5,918,227 円	4,196,348 円	3,949,522 円				
	財源内訳	国庫支出金	円	円	円			
		県支出金	円	円	円			
		起債	円	円	円			
		その他財源	685,300 円	161,450 円	円			
一般財源		5,232,927 円	4,034,898 円	3,949,522 円				
活動指標			平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度(H30)	達成率	次年度(R元)
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 企画展・特別展	回	2	2	1	2	50.0%	2
	② 学習会・観察会	回	22	53	60	50	120.0%	65
③ 学校との連携・融合	回	40	53	35	50	70.0%	50	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度(H30)	達成率	次年度(R元)
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 企画展・特別展見学者	人	10,809	13,052	9,376	11,000	85.2%	12,000
	② 学習会・観察会参加者	人	632	1,049	1,509	1,000	150.9%	1,600
	③ 学校との連携・融合	人	1,050	1,731	1,516	1,100	137.8%	1,600
	2. 数値で表せない効果 (指標 )							

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3		18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について(目的に対する現状など)	山岳博物館の教育普及活動の柱となる企画展の開催に当たって、魅力的な、集客力ある事業展開を行っていく上では、十分な調査時間と情報収集の時間が必要であるが、残念ながら現状においては日常の業務量に圧迫されてしまって、余裕がなく、その結果、構想通りの充実した内容の展示となっていない。山岳博物館事業全体の大胆な業務のスクラップ&ビルドの検討が必要である。
改善の方法等(上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容)	企画展・特別展のあり方も、適正な数や内容(館内の学芸員同士の連携企画)、他機関との連携などを魅力ある事業展開ができるよう検討する必要がある。 近年では学校と博物館とによる連携した事業が定着し、その成果と評価は表れているところであるが、新規のカリキュラムなど新展開も模索すべき時にきており、一方で他の業務量とも図りながら学社連携事業の充実を図っていきたい。

事務事業評価票

様式第2号

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110614			
事務事業名	山岳博物館調査研究事業					会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第1 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実										
施策項目	山岳文化の振興と活用										
前期計画掲載頁	46		頁	個別計画	第7期社会教育計画				37	頁	
事業期間	平成	29	年	～	平成	33	年	根拠法令・要綱等			博物館法

**事業の目的**  
北アルプスと山麓地域の自然や文化に関する調査を行い、これらを活用した教育普及活動を推進する。また北アルプスをテーマとする人文・自然科学における学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、学芸員ほか独自の活動を進めるほか、国や県などの大学や研究機関と連携した調査や研究の推進を行う。

**事業内容**  
高山植物の生活史に関する研究、爺ヶ岳「タネマキジイサン」雪形伝承に関する資料調査、ニホンカモシカの摂取量に関する研究、ライチョウの飼育、増殖技術確立を目指した研究、大北地域の植物分布調査、令和元年企画展開催の「山小屋」に関する調査研究を実施した。

事業費	財源内訳	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		総事業費（決算額）	3,489,301 円	1,208,477 円	248,686 円
		国庫支出金	円	円	円
		県支出金	円	円	円
		起債	円	円	円
		その他財源	円	円	円
		一般財源	3,489,301 円	1,208,477 円	248,686 円

活動指標	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 自然科学分野調査研究	件	3	4	6	4	150.0%	5
	② 人文科学分野調査研究	件	6	5	4	6	66.7%	4
	③ 外部との共同研究	件	2	2	3	3	100.0%	3

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 調査後の成果の公開度	件	2	2	3	6	50.0%	6
	② (企画展、紀要などへの公開の有無)	件	4	4	3	4	75.0%	4
	③ (活動指標の①、②、③に対応)	件	2	2	3	3	100.0%	3

2. 数値で表せない効果  
(指標 ) ※調査研究においては、単年度で調査から成果の公表（企画展や論文などへの公表）が行えるものばかりではなく、何年にもわたって調査を実施し、ようやく成果が出るものがあり、調査を実施したもののうち公表された割合を達成率とし、成果指標として記載した。

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	2	2	3	2	3			

【具体的な課題と改善】

**事業に対する課題について（目的に対する現状など）**  
博物館業務の中で調査研究は、その後の教育普及事業へと展開するための重要なものであるが、日常の業務に時間を取られてしまい、十分なまとまった調査時間を確保できないのが現状である。調査機関ではないので仕方ない部分もあるが、計画的に調査日程を組み、実施していきたい。

**改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）**

各学芸員、専門員、指導員それぞれが独自のテーマを持って、企画展や紀要あるいは広報誌などへ調査の成果を反映していく。なお各種研究機関や山博友の会と連携した事業については、内容を精査したうえで業務量を測りながら選択しながら実施する。ニホンライチョウの飼育繁殖に伴う調査研究は、今後も飼育・繁殖方法の早期技術確立に向け、引き続き環境省が進めるライチョウ保護増殖事業の一環として重点的に進めていく。

事務事業評価票

様式第2号

担当課	教育委員会 部	山岳博物館 課	山岳博物館	係	事務事業No.	110615
事務事業名	山岳資料収集保管事業				会計	一般会計
まちづくりのテーマ	第1 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				款	10 項 6 目 1
施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実					
施策項目	山岳文化の振興と活用					
前期計画掲載頁	46	頁	個別計画	第7期 社会教育計画	37	頁
事業期間	平成 29 年	～	平成 33 年	根拠法令・要綱等	博物館法	

**事業の目的**  
博物館の展示資料、文献など博物館の機能充実のために新規資料の購入や寄贈を受け入れている。また受け入れた資料について資料整理、資料の保管・保存の対応を実施する。

**事業内容**  
新規資料の購入、寄贈の受け入れを行っている。寄贈資料については、資料の受入のための手続き、整理を行う。また保存管理のため、忌避剤やトラップを定期的に入れ替え、害虫の侵入をを予防する。併せて年間1回は、浸透性の高いフッ化スルフル系薬剤により24時間の包み込み燻蒸を実施して資料の保管を行う。

事業費	財源内訳	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		総事業費（決算額）	3,525,443 円	2,834,147 円	3,497,664 円
		国庫支出金	円	円	円
		県支出金	円	円	円
		起債	円	円	円
		その他財源	円	円	円
		一般財源	3,525,443 円	2,834,147 円	3,497,664 円

活動指標	指標名	単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度（H30） 目標値	達成率 （%）	次年度（R元） 目標値
	① 自然科学新規収集	件・点	2件・613点	3件・18点	3件・44点	3件・30点	146.6%	3件・40点
	② 人文科学新規収集	件・点	8件・27点	15件・224点	3件・559点	3件・400点	139.7%	5件・300点
	③							

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①							
	②							
	③							
	2. 数値で表せない効果		(指標 ) 収蔵環境・管理整備状況					

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	2	3	3	2	3				

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

日常の業務に追われ、一部整理作業が手付かずのものがある。過去に寄贈いただいていたライチョウ史料については鋭意目録を作成中。また友の会サークルの方々にはさく葉標本の整理を進めていただき、登録を終了したものについては、ミュージアムネット（S-net）に情報を公開している。人文関係では毎年新規受け入れも多く、通年で資料整理を行っているが、整理作業が追いついていない状況にある。

改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）

資料の収集保管業務は、博物館の基礎的な業務にあたり、将来の資料公開にあたり必要不可欠な作業にあたる。年度ごとの計画的な整理作業を継続する必要がある。なお整理が終了したものから順次ホームページで公開している。

事務事業評価票

様式第2号

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110616			
事務事業名	動植物飼育栽培繁殖事業					会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第1 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実										
施策項目	山岳文化の振興と活用										
前期計画登載頁	46		頁	個別計画	第7期 社会教育計画			37	頁		
事業期間	平成	29	年	～	平成	33	年	根拠法令・要綱等			博物館法

**事業の目的**  
 貴重な野生動植物を守り飼育・繁殖及び栽培・増殖並びに調査研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を対象に、生体展示及びそれに伴う教育普及を行う。また「自然と人が共生する山岳文化都市」の形成につながる事業の一環として、山岳博物館本館の展示と連携した野生動植物の飼育・栽培及び繁殖・増殖を行うことにより、地域の博物館としての機能の充実を図ることを目的とする。

**事業内容**  
 博物館の付属園の機能・役割として、博物館の本館展示では伝えきれない生体展示としての動物や植物の実物の姿を見ていただき、生きている姿と命の大切さを伝える。また飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動を実践する。傷病鳥獣を救護し野生に戻す努力をするとともに、野生に戻すことができない野生動物の長期飼育を行う。希少野生動植物の飼育・栽培及び繁殖・増殖と調査研究に努める。付属園の目的を達成するため、施設の整備を順次進める。

事業費	財源内訳	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		総事業費（決算額）	9,023,662 円	9,272,898 円	6,457,837 円
		国庫支出金	円	円	円
		県支出金	163,000 円	156,000 円	174,000 円
		起債	円	円	円
		その他財源	円	円	円
	一般財源	8,860,662 円	9,116,898 円	6,283,837 円	

活動指標	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）	
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	動植物種類	種	90	86	79	90	87.8%	85
	②	新規保護動物収容数	個体	0	0	0	0	0.0%	0
	③	教育普及開催日	日	7	9	0	0	0.0%	10

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	保護動物収容数	個体	22	22	19	22	86.4%	19
	②	教育普及事業参加者	人	577	558	0	600	0.0%	600
	③								
	2. 数値で表せない効果 （指標 ） ※成果指標のうち②教育普及事業参加者とは、付属園まつり参加者数を表している。								

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	3	3	3	2	3		18	

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

付属園が整備されて以降、抜本的な整備が実施されにま、事前の策としてライチョウ舎の整備を先行して整備を実施してきた。平成30年度は、将来にわたる付属園の整備の見直しを1年間かけて実施してきたがまとまらず、令和元年度に先送りすることになった。早急に整備にあたっての基本方針と整備計画の作成を行う必要がある。平成30年は付属園まつりの内容を検討するため、開催を見合わせた。こちらも内容の検討が必要。

改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）

博物館の基本理念をもとに、中長期の実施計画を立案し、管理運営体制と施設整備の両面から具体的な整備計画を策定する必要がある。ライチョウの飼育や収容スペースの問題、飼育体制の現状から今後は新たな傷病鳥獣の受入は実施しないものとする。

## 事務事業評価票

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110617			
事務事業名	ライチョウ飼育事業					会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第1 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実										
施策項目	山岳文化の振興と活用										
前期計画掲載頁	46		頁	個別計画	第7期 社会教育計画				37	頁	
事業期間	平成	29	年	～	平成	33	年	根拠法令・要綱等 博物館法			

事業の目的	環境省のニホンライチョウ保護増殖事業の一環として、絶滅危惧種ⅠB類に指定されているニホンライチョウの生息域外保全事業に寄与すべく、ニホンライチョウの飼育繁殖事業を行うとともに、長野県及び大町市のシンボルである日本ライチョウの生態についての調査研究を進める。また、希少種の生体展示として公開を目指す。										
事業内容	ニホンライチョウの繁殖、飼育事業及びスバルバルライチョウの飼育事業の実施。 ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウの生態の調査研究・教育普及の実施。 ニホンライチョウの一環公開への準備・公開展示。										
事業費	年度		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	総事業費（決算額）		9,561,779 円			6,072,563 円			10,186,368 円		
	財源内訳	国庫支出金		円			円			円	
		県支出金		円			円			円	
		起債		円			円			円	
		その他財源		円			円			円	
一般財源		9,561,779 円			6,072,563 円			10,186,368 円			
活動指標	指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）		
				実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値		
	①	スバルバルライチョウ飼育数	羽	3	3	3	3	100.0%	3		
	②	ライチョウ飼育数	羽	4	6	6	19	31.6%	19		
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）			
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値		
	①										
	②										
	③										
	2. 数値で表せない効果		(指標①) ニホンライチョウの飼育繁殖技術を確立することで、環境省が作成したニホンライチョウ保護増殖計画の推進に寄与することとなる。また、山岳文化都市としての魅力増やイメージアップに繋がる。								

## 【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3	継続	17	18	

## 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）										
ニホンライチョウの飼育繁殖に関わる技術確立には幾つか課題が飼育園館の中で共有されている。環境省、日本動物園水族館協会等関係との連携を図り、ニホンライチョウの飼育繁殖事業における技術確立のため、現状の課題と今後の対策を検討していく必要がある。 これまで懸案事項であったニホンライチョウの公開が、平成31年3月15日より始まり、教育普及事業推進のために利することになった。当面は午前11時～午後3時と時間を限定し、公開していくこととなる。										
改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）										
山岳博物館の過去の実績を活かしつつ、他の飼育園館と常に情報共有を行いながら、ニホンライチョウの飼育繁殖技術の確立を目指す。 環境省、日本動物園水族館協会等の連携を図り、ニホンライチョウの飼育繁殖事業を行うことで個体数の増を図ってきたい。ニホンライチョウの公開が始まったことで、公開による個体への影響を観察し、適切な管理に努めつつ、公開を継続していきたい。										

事務事業評価票

様式第2号

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	1106112			
事務事業名	付属園整備事業					会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第1 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供										
施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進										
前期計画掲載頁	42		頁	個別計画		第7期 社会教育計画			37	頁	
事業期間	平成	29	年	～	平成	33	年	根拠法令・要綱等			博物館法

事業の目的	ライチョウ舎の建設に伴い付属園の整備計画を見直すとともに、老朽化している一般動物を対象とした飼育舎などを中心に、また植物や岩石などの展示を組み込んだ付属園整備計画に添って、今後修繕・整備を行っていく。									
事業内容	ライチョウ舎の建設工事がH30年3月に終了し、スバルライチョウ及びニホンライチョウの飼育が万全の体制となり育雛事業を積極的に進めるとともに、H31年3月からはニホンライチョウの展示も開始され教育普及事業も今後計画的に進めていく。また付属園整備計画の作成を行い、老朽化した施設の修繕工事を随時実施していく。									
事業費	年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度			
	総事業費（決算額）		4,911,300 円		1,398,600 円		1,882,644 円			
	財源内訳	国庫支出金		円		円		円		
		県支出金		円		円		円		
		起債		円		円		円		
		その他財源		円		円		円		
一般財源		4,911,300 円		1,398,600 円		1,882,644 円				
活動指標	指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）	
				実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	ライチョウ舎数	棟	3	4	4	4	100.0%	4	
	②									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）		
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①									
	②									
	③									
	2. 数値で表せない効果		(指標①) 環境省が策定したニホンライチョウ保護増殖計画の推進に寄与する。加えて山岳文化都市としての魅力増やイメージアップに繋がる。							

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3		18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	新たなライチョウ舎建設や施設の老朽化により付属園整備計画の見直しとそれに基づく長期的な施設整備や修繕事業が求められる。
改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）	平成30年度1年間かけて付属園整備計画の見直しを行ってきたが、今後の事業推進において様々な課題が山積し、整備計画の立案は平成31年度に延期となったが、早急に整備計画を作成し、長期的な整備計画や修繕工事計画の策定及びその施行を目指す。